

第109回 全国図書館大会 岩手大会



令和5(2023)年11月16日(木)～17日(金)

会場／盛岡地域交流センター(マリオス)
いわて県民情報交流センター(アイーナ)

《大会ウェブサイト》<https://lib-iwate.com>



<大会テーマ>

理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える
～希望ある未来は図書館とともに～

- 【主催】公益社団法人日本図書館協会、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、岩手県図書館協会、岩手県学校図書館協議会、岩手県高等学校教育研究会図書館部会、いわて高等教育コンソーシアム附属図書館長及び実務担当者会議、北日本図書館連盟
- 【共催】北海道図書館振興協議会、青森県図書館連絡協議会、宮城県公立図書館等連絡協議会、秋田県図書館協会、山形県図書館協会、福島県公共図書館協会、長崎県公共図書館等協議会
- 【後援】文部科学省、国立国会図書館、全国公共図書館協議会、国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会、専門図書館協議会、一般社団法人日本書籍出版協会、公益財団法人文字・活字文化推進機構、図書館友の会全国連絡会 他(予定)

※ 本大会は、令和5年度北日本図書館連盟研究協議会を兼ねています。

【連絡先】第109回全国図書館大会岩手大会実行委員会事務局

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1

岩手県立図書館内

電話：019-606-1730 FAX：019-606-1731

Eメール：DB0023@pref.iwate.jp



岩手県政150周年記念

会場のご案内

《鐵道利用》

J R盛岡駅下車、東西自由通路を經由して徒歩約4分

※新幹線をご利用の場合、北改札口から西口バス乗り場方面へ

《航空機利用》

いわて花巻空港到着後、いわて花巻空港アクセスバスで約 45 分

盛岡駅東口バス乗り場着、東西自由通路を經由して徒歩約4分

《自家用車利用》

東北自動車道盛岡 ICより約10分

※近隣の有料駐車場をご利用ください。



開催にあたって

第109回全国図書館大会を令和5（2023）年11月16日（木）・17日（金）の両日、岩手県盛岡市にて開催します。岩手県での開催は初めてであり、4年ぶりの対面形式での開催となります。

テーマは、「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える ～希望ある未来は図書館とともに～」としました。

大和朝廷の時代、東山道の奥にあった辺境の地域は、今では風情豊かに「みちのく」と呼ばれることがあります。その一角を成す岩手県は、郷土を代表する詩人・童話作家 宮沢賢治（1896-1933）の心象世界の中にある「理想郷イーハトーブ」のモチーフとされています。賢治の思想の根底には「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」との考えが流れており、混んとする現代社会に生きる私たちが、最も人間らしい行為の一つとされる読書やその場を提供する身近な図書館を通じ、希望ある未来に向けて本当の幸せとは何かに思いを巡らす大会にしたいと考えています。

本県では、「いわて県民計画（2019～2028）」のもと、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現に向け取り組んでいます。人は誰もが幸せになるために生まれてくるのだと思いますが、生きていく上では乗り越えていかなければならない出来事に遭遇することがあります。そんな時、読書や図書館は、必ずや私たちに生きる力（課題解決のための知識や情報）を与えてくれるはずです。

日程

日時	12:30		13:30	17:00		17:30	19:00
11/16 (木)			受付等	開会式・表彰式・全体会			懇親交流会
日時	8:45	9:15	12:15	13:45	16:45	17:30	
11/17 (金)	受付	分科会（午前）	昼食	分科会（午後）			
	展示会・協賛展示会は9:00～17:30まで						

1日目 開会式・全体会 盛岡市民文化ホール 大ホール（マリオス内）

- ・開会式 主催者挨拶、来賓祝辞
- ・表彰式 第39回日本図書館協会建築賞
- ・全体会 基調報告、記念講演

懇親交流会 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

2日目 分科会（14分科会）・展示会 いわて県民情報交流センター（アイーナ）各会議室等
盛岡地域交流センター（マリオス）各会議室等

昼食に関するご案内

- ・弁当 1,000円（税込・お茶付）【大会2日目のみ、参加申込時にお申込みください】
- ・アイーナ1階にコンビニ（ファミリーマート）があります。
- ・会場（アイーナ及びマリオス）内の飲食店、JR盛岡駅ビル内及び駅周辺の飲食店は混雑が予想されますので、是非お申込みください。

演 題「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」

国立天文台水沢 VLBI 観測所（岩手県奥州市）は、明治 32（1899）年に旧緯度観測所として誕生してから現在に至るまで、長い歴史のある天文台です。大正時代には童話作家・宮沢賢治が複数回観測所を訪問して作品のインスピレーションを得ており、宇宙を題材にした賢治の作品群に影響を与えました。その後、水沢の天文台は昭和 63（1988）年に国立天文台となって、現在も岩手の地にて、天の川銀河や、ブラックホールの研究などを行っています。特に令和元（2019）年には、国立天文台水沢の研究者を含む国際プロジェクトがブラックホールの写真撮影に成功するなど、天文学の最先端研究を岩手の地で現在も進めています。

本講演では、水沢の天文台の歴史や宮沢賢治とのつながりに触れつつ、ブラックホールの撮影成功を中心とした最先端の天文学研究について、わかりやすく解説します。また併せて、研究者から見た図書館の重要性和今後への期待についても述べたいと思います。

講 師 本間 希樹（ほんま まれき） 氏
（国立天文台 水沢 VLBI 観測所 所長／教授）

【出身地】

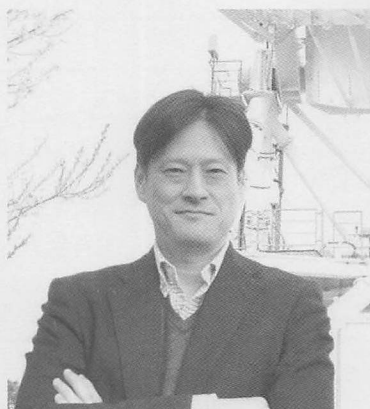
1971 年アメリカ合衆国テキサス生まれ、神奈川県育ち

【略 歴】

1994 年東京大学理学部天文学科卒業

1999 年同大学院博士課程修了。同年国立天文台 COE 研究員。
その後、助教、准教授を経て 2015 年より現在まで、国立天文台教授、水沢 VLBI 観測所所長を兼務。また現在、総合研究大学院大学及び東京大学大学院の併任教授。

専門は電波天文学で、超長基線電波干渉計（VLBI）を用いて銀河系構造やブラックホールの研究を行っている。2017 年より NHK ラジオ「子ども科学電話相談」の回答者も務める。



【主な著書】

『巨大ブラックホールの謎』（講談社ブルーバックス）

『国立天文台教授が教える ブラックホールってすごいやつ』（扶桑社）

『宇宙の奇跡を科学する』（扶桑社）

『国立天文台教授がおどろいた ヤバい科学者図鑑』（扶桑社）

第1分科会 公共図書館 午前・午後

テーマ：「“つながる図書館”～幸せと希望を実現する公共図書館の試み～」

地球規模の気候変動やデジタル社会への進展が進む中、人口減少が進み格差による経済の衰退やコロナ禍からの活動停滞など課題が山積する現代社会において、人々が、適切な判断をするためには多様な観点から正確な情報が継続的に得られる公共図書館の存在がきわめて重要である。

岩手県での、東日本大震災時に県と市町村が協力して課題解決に取り組んだ経験から、図書館における県と市町村のネットワーク構築について着目し、先進事例を基に図書館の今後の可能性を考えようとするものである。また、DX など時代に即応した図書館相互や外部機関との連携も視野に入れ、ネットワークの在り方を考えたい。

《午前》

【基調講演】小林 隆志（鳥取県立図書館 館長）

「図書館のネットワークが県民の幸せと希望を実現する」

【事例報告】角田 有希子（南部町立図書館 館長）

「暮らしに寄りそう図書館～町民とともに～」

《午後》

【事例報告】平 留美子（洋野町立種市図書館 館長補佐）

「東日本大震災でのつながりについて」

【事例報告】種田 滢（豊橋市まちなか図書館 館長）

「地域図書館の挑戦」

【講演者、報告者によるディスカッション】

「つながる図書館を実現するには」

司会 藤岡 宏章（前・岩手県立図書館 館長、嘉悦大学客員教授）

第2分科会 大学・短大・高専図書館 午前・午後

テーマ：「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」

大学図書館はこれまで、学術情報の体系的な収集・蓄積・公開や、教育・研究に対する支援などの役割・機能を担ってきたが、教育・研究活動のDXの促進や、世界的に加速するオープンサイエンスの潮流の中、新たなコンテンツの管理、サービスの提供が求められてきている。

こうした中、文部科学省に、科学技術・学術審議会情報委員会オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会が設置され、このたび審議のまとめが公表された。

この分科会では、これからの大学図書館に求められる役割や機能等について、各大学図書館でその実現に向けた具体的な方策を検討するきっかけとしたい。

《午前》

- 【基調講演】 竹内 比呂也〔千葉大学副学長（教育改革・学修支援）、附属図書館長〕
「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会での検討内容について」
- 【講演】 船守 美穂（国立情報学研究所情報社会相関研究系准教授）
「研究データ管理における大学図書館への期待-協力してやればできる！」
- 【事例報告】 村上 康子（千葉大学アカデミック・リンク・センター／附属図書館利用支援企画課長）
「電子ジャーナルの転換契約」
- 【講演】 長田 洋一（盛岡大学文学部教授）
「配慮を必要とする学生」

《午後》

- 【講演】 野中 雄司（富山大学研究推進部学術コンテンツ課長）
「大学図書館をDXする」
- 【講演】 飯野 勝則（佛教大学図書館専門員）
「今後のメタデータ流通を担う人材を考える」
- 【講演】 檜原 啓一（東北大学附属図書館総務課専門員）
「これからの大学図書館職員のあるべき姿とは？」
- 【パネルディスカッション】

第3分科会 学校図書館 午前・午後

テーマ：「学校図書館活動の活性化 ～学校の「魅力」発信～」

少子化や人口減少社会に対応した活力ある学校づくりは、義務教育諸学校・高等学校の別なく、令和の時代の喫緊の課題である。児童・生徒が自分の価値を認識するとともに相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となることを目指して、全ての学校に特色・魅力ある教育の実現が求められている。その中で、学校図書館においても校内外における様々な活動が展開されている。そこで、本分科会では「学校の『魅力』発信」をテーマに、各学校の図書館活動を通じた「活力のある学校づくり」の取組について報告・情報共有を行う。私たちの図書館が児童・生徒が「輝ける場」となってもらい、そんな願いを込めた分科会である。

《午前》

- 【基調講演】 浅野 祐一（仙台市民図書館主査）
「仙台市図書館学校連携事業の試み～GIGAスクール構想を踏まえた学校支援～」(仮)
- 【事例報告】 浦嶋 律子（大船渡市立大船渡北小学校教諭）
「主体的な学びを支える学校図書館教育を目指して」 (仮)
- 【事例報告】 晴山 雅恵（花巻市立湯本中学校教諭）
「豊かな心を育む読書活動の工夫」 (仮)

《午後》

- 【基調講演】湯川 康宏（埼玉県立飯能高等学校主任司書）
「生徒の心のすみっこに入りこむ図書館になろう」
- 【事例報告】平野 聡子（岩手県立北上翔南高等学校教諭）
「本校の図書館活動の取組と課題について」
- 【事例報告】中村 和宏（岩手県立水沢商業高等学校教諭）
「地域の図書館と連携した本のリユースによる読書推進活動」
- 【ディスカッション】

第4分科会 児童サービス（1） 午前

テーマ：「子どもと本のよい出会いを」（仮）

環境問題、戦争、感染症の流行、新たなメディアの席捲による情報過多など、現代社会が抱える問題は子どもを巻き込み、豊かな読書経験を積むことを難しくしている。物語の世界に浸る、本から自発的に知識を得るといった経験の必要性は年々大きくなっているものの、果たして本は今も子どもたちにとって魅力的なのか？図書館員にはもっとできることがあるのではないかな？

今を生きる子どもたちにどのようにして本を手渡していけるのかについて、丁寧な選書の実際や、選んだ本を手渡す工夫、また、地域と連携した調べ学習の取り組みを通じて考えていきたい。

- 【基調講演】張替 恵子（公益財団法人 東京子ども図書館理事長）
「まだ夢をみることができるか」（仮）
- 【事例報告】護得久 えみ子（公益財団法人 東京子ども図書館）
「本を選び、手渡す 東京子ども図書館・児童室の実践から」
- 【事例報告】金久 由美子（久慈市立図書館司書）
「久慈市立図書館を使った調べる学習コンクール ～市内関連施設との連携について～」

第4分科会 児童サービス（2） 午後

テーマ：「読書が子どもに与える影響」

新型コロナウイルス感染症の拡大により、子どもたちの生活は一変。人と接する機会が減るなかで、多様な考え方、生き方に触れられる読書が果たす役割は大きかった。

今また、3年超に及ぶ自粛生活が区切りを迎え、子どもたちを取り巻く環境は、再び大きく変わろうとしている。アフターコロナという新たな環境への柔軟な対応が求められる今日、読書の効果や、子どもたちへの影響を学び、それを今後の活動にどうつなげられるか考えたい。

- 【基調講演】酒井 邦嘉（東京大学教授）
「脳から考える読書が子どもに与える影響」
- 【事例報告】阿部 りか（花巻市立図書館 読み聞かせボランティア もじもじクラブ）
「図書館でつながる仲間の輪」
- 【事例報告】藤村 友樹子（絵本専門士 絵本探検部えとことば 主宰）
「絵本と子どもの間に立って」

第5分科会 図書館情報学教育 午前

テーマ：「日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から」

図書館情報学教育部会では、現在約20年ぶりに『日本の図書館情報学教育』の調査を実施している。官製ワーキングプアの代表例として図書館職員の処遇が紹介されたり、少子化によって大学経営が困難になったりと大学において図書館職員の養成教育を提供する環境が難しくなってきた中での調査でもあり、結果が注目される。

このような問題意識に立って、本分科会では、日本の高等教育機関（主に、大学・短期大学・大学院）における図書館情報学教育プログラムの実施状況について報告を行う。

【報告】坂本 俊（聖徳大学）

「『日本の図書館情報学教育』に関する調査の概要」（仮）

【報告】下山 佳那子（八洲学園大学）、水沼 友宏（桃山学院大学）

「日本の高等教育機関における図書館員養成プログラムの実施状況について」（仮）

【報告】大谷 康晴（青山学院大学）

「日本の高等教育機関における図書館情報学教育と課外プログラムの実施状況について」（仮）

第6分科会 著作権 午前

テーマ：「令和3年改正著作権法の施行後の動向～図書館サービスに活かす上で考えたいこと～」

令和3年改正著作権法については、国立国会図書館からの絶版等資料の個人送信は令和4年5月から開始され、図書館等からの図書館資料等の個人送信は令和5年6月から施行されている。図書館等からの個人送信については3年にわたり、図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会において協議が行われ、令和5年5月にガイドライン等が設定された、令和3年改正著作権法の施行後の動向を報告する。

【事例報告】小池 信彦（日本図書館協会著作権委員会委員長、調布市立図書館）

「令和3年改正著作権法の施行後の動向」

【事例報告】松崎 宏樹（国立国会図書館利用者サービス部サービス企画課課長補佐）

「国立国会図書館絶版等資料個人送信の状況」

【質疑】事例報告者と学識者による討議（登壇者は未定）

「今後の方向性」

第7分科会 図書館の自由 午後

テーマ：「戦争と図書館」

2022年2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻によって、ウクライナの図書館は大きな被害を受け、ロシア占領地の図書館ではウクライナ文化・教育への弾圧が行われています。一方でウクライナの図書館ではロシア語の書籍が大量に撤去されているという報道もあります。

日本においても、太平洋戦争の際には多くの図書館が被災し、また思想統制に伴う検閲や弾圧が行われていました。

今回の分科会では、「戦争と図書館」をテーマに、日本における戦時中の図書館への思想統制と検閲の状況についての講演を基に、戦時下における図書館の状況についての理解を深め、戦争と向き合う図書館について考えていきます。

【基調報告】日本図書館協会図書館の自由委員会委員

「図書館の自由・この1年」

【講演】新屋 朝貴（公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館）

「旧大橋図書館から引き継がれた発禁本」（仮）

【講演】濱 慎一（伊那市創造館）

「戦時下における県中央図書館と地方中央図書館～旧上伊那図書館の資料から～」（仮）

【講演】荒木 英夫（元・気仙沼市立図書館館長、元・図書館の自由に関する調査委員会委員）

「戦時下の図書館における思想統制と検閲～気仙沼市立図書館の事例～」（仮）

【研究協議】テーマ「戦時下の図書館について考える」（仮）

第8分科会 障害者サービス（1） 午前

テーマ：「SDGs と図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して」

IFLA は、2015 年に国連で採択された 17 の持続可能な開発目標（SDGs）を含めた「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の実施の支援と貢献に取り組んでいる。当分科会は「誰も取り残さない」という SDGs の理念に基づくインクルーシブな図書館作りの理解を深めることを目標に、IFLA で障害者サービスの担当委員を長く務めている河村宏氏が基調講演を行い、日図協国際交流事業委員会委員長の三浦太郎氏が、世界の図書館の取組について報告する。次いで、IFLA アジア・オセアニア地域部会委員の野村美佐子氏が IFLA による SDGs の事例収集方法を紹介し、日本の図書館界からの SDGs への発信について意見交換を行う。

【基調講演】河村 宏（特定非営利活動法人支援技術開発機構副理事長）

「障害者サービスからインクルーシブなサービスへ：SDGs が図書館界に求めること」

【報告】三浦 太郎（明治大学文学部教授）

「SDGs と図書館：IFLA ロッテルダム大会から見てきたこと」（仮）

【報告】野村 美佐子（日本 DAISY コンソーシアム事務局長）

「IFLA ライブラリー・マップ・オブ・ザ・ワールドの活用」

第8分科会 障害者サービス（2） 午後

テーマ：「最新の ICT 技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、障害者の読書環境」

視覚障害、発達障害、肢体不自由等により読書に困難のある人もパソコンやスマホなどを用いて、自ら読めるようになる技術が進んできている。しかし、これらを知らずにサービスに生かしていない図書館も多い。基調報告は佐藤聖一氏から、すべての人が利用できる図書館を実現するための最新動向について報告する。次いで、国立国会図書館から「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン」について詳述する。また、視覚障害者等の機器やソフトなどの最新情報について、視覚障害者でもある松井進氏から紹介する。分科会ではアクセシビリティとして、機器類・コンテンツ・サイト・ビューアの問題があることを明らかにする。

【基調報告】佐藤 聖一（埼玉県立久喜図書館・日本図書館協会障害者サービス委員会委員長）

「すべての人が利用できる図書館を実現するために」

【発表】講師未定（国立国会図書館）

「アクセシブルな電子図書館ガイドライン」

【発表】松井 進（千葉県立西部図書館）

「障害者の読書・情報取得に役立つ先進機器」

※ 講師が決まりましたら、おって、大会ウェブサイトでご案内します。

第9分科会 認定司書事業 午後

テーマ：「日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから」

現行の認定司書制度は、1996年の生涯学習審議会社会教育分科審議会報告で言及された司書の高度な専門性評価に基づき検討・設計された。こうした図書館員の認定制度は海外でも、2000年代以降、活発に議論され、また実施されてきた。さらに日本の他職種においても発展してきた。これらの知見を今後の認定司書制度に活かしていくことには意義がある。以上の点から、認定司書事業委員会では、認定司書制度に関する内外の情報を収集し、中長期的な認定司書制度のあり方を検討する認定司書制度検討委員会を設置した。分科会では、認定司書制度検討委員会の調査を踏まえて、これまでの制度の成果と今後のあり方について議論をしていく。

【報告】松本 直樹（慶應義塾大学）、内山 喜寿（上越市教育委員会、日本図書館協会認定司書第1149号）

「認定司書は認定司書事業をどう捉えているか」

【報告】酒井 由紀子（帝京大学）

「海外図書館関連専門職における認定事業の取り組み」（仮）

【報告】青野 正太（駿河台大学）

「国内専門職における認定事業の取り組み」（仮）

【報告】青野 正太（駿河台大学）

「図書館職員の研修制度・人材育成の現状調査」（仮）

【ディスカッション】

糸賀 雅児（認定司書審査会委員、慶應義塾大学名誉教授）

岩持 河奈子（岩手県立図書館指定管理者、日本図書館協会認定司書第1202号）

大谷 康晴（認定司書事業委員長、青山学院大学）

未定

第10分科会 災害と図書館 午後

テーマ：「災害と図書館 ～東日本大震災に学び今後の対策を考える～」

東北地方を中心に大きな被害をもたらした東日本大震災の発生から12年が経過した。改めて東日本大震災における図書館の被災状況を横断的に振り返り、復旧までの歩みを検証する。また、図書館の被災については被害の程度や復旧までの期間に大きな差があることから、国の支援である社会教育施設災害復旧費補助制度を中心に、図書館の復旧過程で実施された事業の報告を受け、災害からの復旧プロセスを学ぶ。また、図書を始め図書館資料の災害、特に水害からの予防対策と対処方法について、東日本大震災以後に得られた教訓を盛り込んだ講話とワークショップから学び、今後の災害対策につなげていく。

【基調講演】川島 宏（日本図書館協会図書館災害対策委員会・株式会社 栗原研究室）

「東日本大震災における図書館の被災と復旧概要」（仮）

【事例報告】講師調整中

「東日本大震災からの図書館に関する復旧・復興支援」（仮）

【事例報告】講師調整中

「災害から資料を守り、救う」（仮）

【ワークショップ】講師調整中

「水濡れ被災資料の処置」

※ 講師が決まりましたら、おって、大会ウェブサイトでご案内します。

第 11 分科会 出版流通 午後

テーマ：「地方における書店の役割と図書館」

近年、域内に小売書店がない自治体が増加しており、国会議員らによっても問題視されるようになってきている。こうした状況下において、そのような自治体の図書館はどのような役割を果たすべきか、また出版産業とどのような関係を築くべきかについて、三人の専門家からの報告を聞く。

【基調報告】講師調整中

【事例報告】講師調整中

【事例報告】講師調整中

※ 講師が決まりましたら、おって、大会ウェブサイトでご案内します。

第 12 分科会 多文化サービス 午前

テーマ：「暮らしの中の情報を図書館につなげる一岩手県の事例を通してー」（仮）

震災や災害の時に日本語を母語としない人々への安全情報を伝える手段や言語の問題がクローズアップされた。コロナ禍では、Web 上で多言語による緊急時の情報発信が行われるようになった。一方、地域に暮らす外国人が日常的に必要な情報をどのように入手しているのか。その情報活用の中に図書館は含まれているか。多文化サービスの理念を踏まえて公共図書館における多文化サービスの意義を 4 年ぶりに対面で開催される岩手県で、多文化に関わる地元の人々と一緒に考える場としたい。

【委員会報告】浜口 美由紀（日本図書館協会多文化サービス委員会委員長）

「多文化サービスこの 1 年」

【基調報告】平田 泰子（多文化サービス委員会委員）

「未定」

【報告】講師調整中

【報告】講師調整中

※ 講師が決まりましたら、おって、大会ウェブサイトでご案内します。

第 13 分科会 非正規雇用職員 午後

テーマ：「指定管理者・委託で働く非正規雇用職員」

公立図書館の民営化の進展に伴い、指定管理者や委託で働く非正規雇用職員が年々増えている。その数は 1 万 5 千人を越え、職員数全体の 34.8% に及んでいる（日本図書館協会 日本の図書館統計 2022）。これらの職員の多くは直接雇用の会計年度任用職員と変わらないか、もしくはそれ以下の低待遇と不安定雇用の状態に置かれている。指定管理者導入による職員構成の変化、NP0 で働く職員の実態、さらに日本図書館協会の調査に見る当事者の意識などを見ていくとともに、「働き方改革」に伴う法整備や今後必要とされる対策についても考えていく。

【講演】日向 良和（都留文科大学共通教育センター 教授）

「図書館の非正規雇用職員について（問題提起）」（仮）

【報告】小形 亮（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会）

「指定管理者・委託で働く職員」

【報告】下吹越 かおる（NP0 法人本と人をつなぐ「そらまめの会」理事長）

「指定管理者 NP0 の実情」（仮）

【報 告】松井 祐次郎（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会）
「非正規雇用（民間）のための法令・政策」（仮）
【講演者、報告者によるディスカッション】

第 14 分科会 市民と図書館 午後

テーマ：「住民が取り組む図書館職員問題」

会計年度職員制度が始まり 3 年目にあたる今年度、公共図書館の基幹的なサービスを担う司書の多くが、非正規職員という不安定な働き方をしていることがクローズアップされている。自らの将来に不安を抱きながら働いては、公共図書館の仕事を恒常的に支えることはできない。

日々私たち市民に適切に接してくれる司書の方々の置かれた状況が、少しでも改善するために、私たち市民がどのような役割を担えばよいのか、講演会及びパネルディスカッションを開催し、学び、語り合い、考える機会にしたいと考えている。

《第 1 部》

【基調講演】渡辺 百合子（はむねっと）
「未定」

《第 2 部》

【パネルディスカッション】

- パネラー① 渡辺 百合子（はむねっと）
- パネラー② 調整中
- パネラー③ 調整中
- パネラー④ 調整中

※ パネラーが決まりましたら、おって、大会ウェブサイトでご案内します。

第 109 回全国図書館大会岩手大会 お申込のご案内

1. 各種参加お申込みについて

＜大会参加＞ ※旅行契約ではありません。

- 参加費（資料代など） 7,000 円（岩手県在住、在勤、在学の方は 5,000 円）
- 申込開始日 令和 5 年（2023 年）8 月 1 日（火）12：00 より先着順にて受付いたします。
- 申込締切日 令和 5 年（2023 年）10 月 16 日（月）23：59 までとなります。
- その他 障がいによる必要な配慮（手話通訳、要約筆記、拡大資料、点字資料、テキストデータ、車椅子席、身体障がい補助犬の参加）がある場合は、申込時に該当箇所にチェックをつけてください。その他の配慮が必要な方は、「その他」の項目にチェックをつけ、必要な配慮について入力をお願いします。

＜分科会参加＞ ※先着順（定員あり）

本案内 P.5～12 をご参照のうえ、ご希望の分科会を選択してください。

＜懇親交流会＞ 事前申込制 ※旅行契約ではありません。

- 日時 令和 5 年（2023 年）11 月 16 日（木）17：30～19：00
- 場所 ホテルメトロポリタン盛岡（ニューウィング）4 階 メトロポリタンホール（予定）
- 会費 5,000 円（食事、飲み物付、消費税込み）

＜弁当（昼食）＞ 事前申込制（当日販売はありません。） ※旅行契約ではありません。

- 日時 令和 5 年（2023 年）11 月 17 日（金）引換時間は 11：00～13：00 となります。
- 引換場所 盛岡地域交流センター（マリオス）、いわて県民情報交流センター（アイーナ）
※詳細情報は、弁当券に記載してご案内の予定です。
- 料金 1,000 円（紙パックお茶付、消費税込み）

2. お申込み・お支払い方法について

＜お申込み＞

＜QR コード＞



申込専用のインターネットサイトから必要事項を入力してください。

<http://www.mwt-mice.com/events/toshokan109morioka>

※ パソコン版サイトのみ

※ 懇親交流会や弁当（昼食）の申込の有無に関わらず、必ず大会参加の申込の手続きが必要です。

＜お申込み完了後＞

- 受付完了返信メールが届きますので、お申込内容をご確認ください。
- 申込締切日（10 月 16 日）までは、申込サイトから変更・取り消しが可能です。

＜請求書の郵送＞

希望者は申込サイトから手続きが必要です。申込締切日以降に順次郵送させていただきます。

＜各種費用のお支払い＞

お申込み手続きが完了後、①または②の方法で手続きをお願いいたします。

① 銀行振込 ※振込手数料につきましては、参加者負担となります。

- 支払期日 令和 5 年（2023 年）10 月 26 日（木）まで
- 振込口座 みずほ銀行 第五集中支店 普通 0170999 メイツカンコウサービス（カ

② クレジットカード決済

申込サイト内にてクレジットカードでの決済が可能です。

＜お支払い完了後＞

申込締切日までにお申込みをいただいた方には、11月2日（木）までに、大会参加券（全体会・分科会）、☆懇親交流会参加券、☆弁当券、☆宿泊券を郵送にてお送りします。

※ ☆印は、お申込みいただいた方のうち対象の方のみ郵送します。

3. 宿泊プランのご案内（募集型企画旅行契約）

- 宿泊設定期間【大会前日】令和5年（2023年）11月15日（水）、
【1日目】11月16日（木）、【2日目】11月17日（金）

- 最少催行人員 1名さま

- 添乗員 同行いたしません。

- 日程 各自移動となります。お客様自身で各種手続きを行っていただきます。

- 宿泊先 別紙のリスト（P.16）にてご確認ください。

- 旅行代金 別紙のリスト（P.16）にてご確認ください。

1名さま、1泊あたりの料金となります。以下の費用が含まれます。

宿泊代金、朝食（※一部ホテルは朝食なしまたは軽朝食）、サービス料、消費税

■ 注意事項

※ 客室数（禁煙・喫煙）には限りがあります。先着順に受付させていただきます。

※ お部屋番号は、チェックイン時にホテルフロントにてご確認ください。

※ 別途ご案内の旅行条件書をご確認のうえ、お申込みください。

4. 申込み後の変更・取消（取消料）について

お電話での変更・取り消しは、手違いの恐れがございますので、一切受付いたしません。申込締切日（10月16日）までは申込サイトより手続きをお願いいたします。10月17日（火）以降の変更・取り消しの場合は、メール（送信先：lib-iwate2023@mwt.co.jp）にて変更内容を送信してください。

申し込み後の変更・取り消しは、次の手数料を申し受けます。取消日とは、当社の営業日・営業時間内に、お申し出いただいた日とします。

返金は、大会終了後1か月以内に、指定の口座へ返金いたします。大会会場での返金はいたしません。お申し込みの際に、返金先口座情報をお知らせください。返金時の振込手数料を差し引いての返金となります。

＜懇親交流会、弁当（昼食）＞

項目	取消日				
	11月8日まで	11月9日 ～11月14日	11月15日	11月16日	11月17日
懇親交流会	無料	30%	50%	100%	—
弁当（昼食）	無料	100%	100%	100%	100%

<宿泊プラン> ※各宿泊日から起算して計算します。

項目	取消日	21 日前まで	20～8 日前	7～2 日前	前日	当日	無連絡不参加
						旅行開始前	および旅行開始後
宿 泊 プラン		無 料	20%	30%	40%	50%	100%

※11 月 15 日（水）と 16 日（木）の 2 泊分の宿泊のお申込みを、14 日（火）にすべて取り消した場合
は、宿泊プランの旅行代金の 15 日（水）宿泊分 40%と 16 日（木）宿泊分 30%が取消料となります。

<大会参加費>

大会運営の都合上、費用の振込後の取消は、費用の返金はありません。あらかじめご了承ください。

5. 旅行条件（募集型企画旅行）について

詳細は当社ホームページ（<http://www.mwt.co.jp>）でご確認いただけます。

6. 個人情報の取扱について

当社は、お申込の際に提出された申込書などに記載された個人情報について、お客様との連絡のために
利用させていただくほか、お客様がお申込みいただいた運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配および
それらのサービスの受領のための手続きに必要な範囲内で利用させていただきます。また大会事務局さまに
提出させていただきます。上記以外の目的で本人の了承なく個人情報を第三者に開示することはありません。
その他詳細は、当社ホームページ（<http://www.mwt.co.jp>）にてご確認ください。

7. 旅行条件、旅行代金の基準日

この旅行条件は令和 5 年（2023 年）5 月 30 日（火）を基準としています。旅行代金は基準日に
有効な運賃・規則を基準といたします。

8. 大会参加申込・弁当（昼食）懇親交流会・宿泊プランに関するお問い合わせ先

<取扱い支店／旅行企画・実施>

観光庁長官登録旅行業第 55 号



盛岡支店

一般社団法人日本旅行業協会正会員

ボンド保証会員

〒020-0022 岩手県盛岡市大通 3-3-10

（七十七日生盛岡ビル 9 階）

総合旅行業務取扱管理者：吉田 明弘 / 担当：佐々木、大川

TEL：019-654-1058 / FAX：019-654-1044

メール：lib-iwate2023@mwt.co.jp

営業時間 平日 9:30～17:00（土・日・祝日休業）



私たちは持続可能な開発目標（SDG）を支援しています。



東北 2023-20036

【別紙】

第109回全国図書館大会岩手大会 宿泊プランのご案内

宿泊先ホテル		宿泊代金（1泊1名あたり） ※11/15～11/17 同料金		盛岡駅 までの 所要時間	
		シングル	ツイン (1室2名利用)		
盛岡市内	1	ホテルロイヤル盛岡	19,000	－	徒歩 15分
	2	ダイワロイネットホテル盛岡駅前	16,000	－	徒歩 3分
	3	ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING	15,000	－	徒歩 3分
	4	リッチモンドホテル盛岡駅前	15,000	12,000	徒歩 2分
	5	ホテルメトロポリタン盛岡 本館	12,000	－	徒歩 1分
	6	ダイワロイネットホテル盛岡	11,000	－	徒歩 15分
	7	ホテルルートイン盛岡駅前	9,000	－	徒歩 2分
	8	ホテルエース盛岡	9,000	－	徒歩 12分
	9	ホテル小田島	9,000	－	徒歩 18分
	10	ホテルニューカーリーナ	9,000	－	徒歩 14分
	11	東横イン盛岡駅南口駅前	8,000	－	徒歩 3分
	12	東横イン盛岡駅前	8,000	－	徒歩 3分
	13	ホテルパールシティ盛岡	8,000	－	徒歩 8分
	14	パシフィックホテル盛岡	8,000	－	徒歩 18分
	15	R&Bホテル盛岡駅前（軽朝食）	7,000	－	徒歩 4分
	16	盛岡ニューシティホテル（朝食なし）	7,000	－	徒歩 3分
	17	盛岡シティホテル（朝食なし）	7,000	－	徒歩 4分

＜ご案内＞

- 1 一部ホテルは軽朝食または朝食なし（素泊まり）となります。
- 2 上記宿泊代金には朝食代（一部ホテルを除く）、サービス料、消費税が含まれます。
- 3 朝食なしのホテルをご利用いただく場合は、お客様ご自身でお食事をご準備ください。
- 4 自家用車でご来県で、ホテルの駐車場のご利用を希望される場合は、各ホテルにより条件（駐車可能台数、有料・無料）が異なりますので、各ホテルへお問合せください。

申し込み後の取消（取消料）について

※各宿泊日から起算して計算します。

項目	取消日					
	21 日前まで	20～8 日前	7～2 日前	前日	当日 旅行開始前	無連絡不参加 および旅行開始後
宿 泊 プラン	無 料	20%	30%	40%	50%	100%

■取消日とは、当社の営業日・営業時間内に、お申し出いただいた日とします。

※11月15日(水)と16日(木)の2泊分の宿泊のお申込みを、14日(火)にすべて取り消した場合は
宿泊プランの旅行代金の15日(水)宿泊分40%と16日(木)宿泊分30%が取消料となります。